

生誕450年

伊達政宗の生涯をたぐねて

第1回

「政宗のプロフィール」

仙台市博物館 学芸普及室長 菅野正道



今年、平成二九年は伊達政宗生誕四五〇年の節目にあたります。これを記念し、今号から、私たちのまち仙台・宮城の礎を築いた伊達政宗の足跡をご紹介します。

政宗の生涯

仙台藩の初代藩主である伊達政宗が生まれたのは、当時の日本の暦では永禄一〇年八月三日。太陽暦では一五六七年九月五日となります。伊達政宗のさまざまなエピソードを紹介するこの連載の一回目では、まず政宗のプロフィールを紹介しましょう。

政宗は伊達氏一六代当主であった輝宗とその正室である最上氏義姫の間に生まれ、梵天丸と名付けられました。同じ年に生まれた人物としては、真田信繁（幸村）や九州の猛将として知られる立花宗茂がいます。ちなみに、織田信長は三三歳、豊臣秀吉は三〇歳、徳川家康は二四歳、それぞれ政宗



伊達政宗の肖像画 (仙台市博物館蔵)

よりも年長です。政宗にとつては父親と同世代の人物だったということになります。

政宗は、伊達氏の本拠地があった現在の山形県米沢で生まれ育ちました。幼少の頃、天然痘にかかり、病毒が入ったことで右目を失明します。政宗が「独眼竜」と呼ばれたのはこのことに由来します。

一八歳で伊達家の当主となった政宗は、数年間で急速に勢力を拡大させます。しかし、天下統一を図る豊臣秀吉には抗することができず、獲得した領地の大部分を没収され、さらには本領である現在の福島県北部や米沢周辺を取り上げられ、代わりに岩手県の南半、宮城県の北半を与えられ、岩出山（宮城県大崎市）に居城を移します。

天下分け目の関ヶ原合戦の際に徳川家康に味方した伊達政宗は、居城を宮城郡青葉山に定め、新たな治府の建設に取りかかります。政宗によって「仙台」と名付けられたこの土地こそ、現在に至るまで東北最大の都市として発展を遂げることになるのです。

徳川幕府の下で六二万石という全国第三位の外様大名となった政宗は、寛永一三年（一六三六）五月二四日に江戸で七〇年の生涯を終えました。死因は、消化器系の癌に起因する腹膜炎と推定されています。

政宗の人物像

次に伊達政宗はどんな人物だったのか、

幾つかの側面から探ってみましょう。

まず武将としてですが、一番得意な武器は鉄砲でした。砲術の名人稲富一夢から免許を貰っており、晩年まで狩猟の際には自ら鉄砲を撃っていました。狩猟と言えど、鷹狩も大好きで、また、鱒や鮎を獲る川狩も好んで行いました。

政宗は「武」だけでなく「文」の素養も広く、茶道、香道、能楽の造詣が深く、和歌や連歌、漢詩等を作り、古典文学にも通じていました。また「文」に関係したものとして忘れてはならないのが書です。政宗は自ら筆を執ることを好み、たくさんの手紙を残しています。大名ともなると、普通は清書役の家臣に手紙を代筆させるのですが、政宗は自筆で手紙を書くことをいとませんでした。

性格は、気配りが細やかな一方で、派手なパフォーマンスを好み、またかなりのワシマン。細かいことも、自分で決めて指示出ししないと気が済まない人でした。

もう一つ政宗が気を配ったものに食事があります。季節感を大事にし、知人や家臣らとのコミュニケーションのツールとしても重視していました。酒を好んだ政宗ですが、飲み過ぎて乱れることがあり、江戸でその様子が評判になったりもしています。薬の調合の知識もありましたが、これは若い時から胃腸の持病に苦しんだ経験によるものようです。

伊達政宗については、まだまだたくさんエピソードが伝わっています。次号からの連載をどうぞお楽しみに。

※本稿では仙台市博物館の学術研究機関たる立場から人名に敬称を付しておりません。

伊達政宗と仙台開府を、さらに詳しく！

仙台市史 通史編 近世1

伊達政宗の仙台入部と藩主としての国づくり、仙台藩270年の基礎となる二代藩主伊達忠宗の政治、藩政時代初期の文化など、戦国時代末期～江戸時代初期の伊達氏と仙台藩の歴史を豊富な図版や写真とともに紹介。

A5判 オールカラー 495頁 価格 2,858円(税別)
発売元: 関宮城県教科書供給所 TEL:022-235-7181
県内主要書店にてお求めいただけます。



正保二年 奥州仙台城絵図(部分)
重要文化財 黒漆五枚駒具足
伊達政宗所用
いずれも仙台市博物館蔵

博物館休館のお知らせ

館内設備改修工事のため、以下の期間を休館とさせていただきます。ご不便をおかけしますがご了承くださいませよう、お願いいたします。

平成28年12月28日(水)
～平成29年3月31日(金)

※休館中のお問い合わせ先
022-225-3074
(平日9:00～16:45)

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM TEL:022-225-3074 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) ▶ ツイッター @sendai_shihaku 仙台市博物館 検索